

1. 研究目的

他国に比べ、日本人は自国について無知であるとも言われている。昨今、グローバル化が急速に進み、海外の人に向けて、自国の文化を語れるかが重要視されている。こんな環境下でデザインを学ぶ私たちは、改めて“和の心”を見つめ直し、日本についてより理解を深める必要がある。そこで今回、サレジオ高専デザイン学科の学生達をターゲットにして、日本そして、日本の美意識について理解を深めるための研究と提案を行うこととした。

2. 調査と分析

①日本の美意識について

美意識とは、人が美しいと感じる心の働きであり、美しいと感じる対象は個体差が大きく、時代・地域・社会・集団・環境などによっても大きく異なる。

私たちの国、日本の美意識から連想されるものには、わびさびというものがあり、それを理解する事が、和の心と日本の美意識を理解する事に繋がるという考えに至った。

②わびさびについて

わびさびは、ひとつの明確な美として生まれた当初から、禅と結びついており、禅では、慣れや先入観にとらわれることなく、生涯に一度だけめぐりあう機会として何事にも接しようとする考え方を大切にす。わびさびとは、この禅の精神から来る「一期一会」の考え方から生まれた一つの美のかたちといえる。

これらの結果から、わびさびという複雑な美意識を理解するには、「一期一会」について理解を深め、それが和の心を理解することに繋がると考えた。

3. コンセプトの立案

コンセプト

「和の心を理解する為の一期一会の視覚化」

一期一会とは、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを知り得て何事にも取り組むことを意味する。一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもてなしをしようという含意である。この言葉こそ、わびさびの精神、禅の精神、そして、和の心の基盤といえる。

4. デザイン展開

一期一会をわかりやすく伝えるために、写真を利用したポスターでの視覚表現を試みた。題材にす

るのは、海岸周辺の時間軸に大きな影響を受けやすい様々な物語で、一瞬をおもわせるような表現をテーマにしている。また色については、あらゆる色を内包して立ち上がり、単なる色彩を越え様々なイメージの始点や終点であると言われ、わびさびの世界では特別な色として扱われている黒を基調にしたモノクロとする。

5. 完成図



6. 結論

サレジオ高専デザイン学科の学生に、これらの作品を見てもらい、そこから連想するイメージを書き出してもらったところ、以下の結果を得た。

- ・宇宙空間
- ・寂しく、もう会えない
- ・昔を思い出す
- ・もやもやしたイメージ
- ・冷たい、朽ち、古い
- ・時が止まったイメージ、停止

今回の作品から、和の心を伝えるという当初の目的を完全に達成することはできなかったが、上のイメージワードから、日本の美意識、和の心のポイントである「一期一会」を部分的には伝えることができたと考える。そして、デザインを志す者として、今後も、この研究を続けたい。

文献

- [1] レナード・コーレン, “わびさびを読み解く”, 2014年
- [2] エイ出版社, “現代に生きる禅の力”, 2015年
- [3] 阪急コミュニケーションズ, “千利休の功罪”, 2013年
- [4] ちょこっとセラピー

<http://homepage3.nifty.com/chokosera/index.html>